



コース内の見どころをご紹介します!



① 浦戸砲台跡

1863(文久3)年、灯明台のあった場所(現在の龍馬像近辺)に本格的な砲台が構築されました。看板設置場所に弾薬の貯蔵庫があり、当時の石垣が僅かに残っています。



② 田中桃葉記念碑

田中貢太郎(1880~1941年)小説家。教員、新聞記者を経て24歳で上京、大町桂月の門下生となり、亡くなるまで師弟関係は続きました。作品に「日本怪談全集」等があります。



③ 坂本龍馬影歎碑

碑は龍馬と親交のあった土方久元が龍馬を想う七言絶句の詩を彫記し、下方に板垣退助の撰文があります。1916(大正5)年、鏡川畔に建立後、1928(昭和3)年、現在地に移設されました。



④ 吉井勇歌碑

吉井勇(1886~1960年)漂泊の歌人、劇作家。最初の妻と離婚後、香美市猪野々の山峡に草庵「溪鬼荘」を結んで隠棲しました。祖父の友実が薩摩藩士で、龍馬と親交がありました。



⑤ 坂本龍馬像

坂本龍馬(1835~1867年)幕末の志士。像は龍馬の功績を後世まで伝えようと、地元青年有志によって建立されました。高さは5.3m、台座を含めた総高は約13.5mになります。



⑥ 大町桂月記念碑

大町芳衛(1869~1925年)酒と旅を愛した文人。雅号桂月は月の名所桂浜にちなんでいます。全国を旅し、その魅力を紀行文で紹介、特に十和田湖奥入瀬渓谷を全国に知らせたことは有名です。



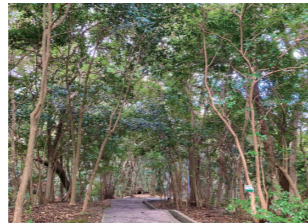
⑦ 龍王岬

本浜の南端にある岬で、海を司る神を祀った海津見(わたつみ)神社、さらに一段高い場所には早高(はやたか)神社が鎮座しています。



⑧ 高知灯台

1883(明治16)年に本浜の龍頭岬に設置されました。1971(昭和46)年に全面改修後、現在の場所に移設されました。



⑨ 椿の小径

桂浜のテラス台地から県立坂本龍馬記念館方面へと続く遊歩道。椿を中心とした木立に囲まれています。



植物について  
もっと知りたくなったら...  
牧野植物園へ行く!

高知県立牧野植物園

世界的植物分類学者・牧野富太郎博士の業績を顕彰するため、高知市の五台山に開園した植物園です。園内では、博士ゆかりの植物をはじめ、東洋の園芸植物や温室の熱帯植物など、3,000種類以上が四季を彩ります。博士の業績や魅力を紹介した常設展示、緑を眺めながら食事ができるレストランやカフェ、オリジナルグッズが揃うショップもあります。



写真：高知県立牧野植物園 提供

●住所 高知市五台山4200-6  
●電話 088-882-2601



史跡と一緒に牧野博士ゆかりの植物を探そう!

歴史と自然をめぐる

桂浜散策  
マップ

Katsurahama Walking Map



ようこそ、桂浜へ! 私たちがお案内します!

土佐観光ガイドボランティア協会

桂浜公園での観光案内は、私たちNPO法人土佐観光ガイドボランティア協会にお任せください! また、桂浜観光案内所には、高知市内を中心に、高知県内の観光ガイドパンフレットを取り揃えております。桂浜公園のご案内、観光のご相談など、お気軽にお声がけください。

「桂浜散策マップ」を活用したガイドのほか、高知市内の他の観光地でも予約制でガイドを実施しています。詳しくは土佐観光ガイドボランティア協会までお問い合わせください。



お問い合わせ ☎088-820-1165 9:00~16:00(12/29~1/3はお休み)  
<http://npo-tosakan.jp/>

まきのとみたるう  
牧野富太郎博士とは?

NHKの連続テレビ小説「らんまん」の主人公のモデルとなった牧野富太郎博士は、高知県出身の世界的植物分類学者です。生涯で新種や新品種など1,500種類以上の植物を命名したほか、日本全国で採集調査を行い、40万枚とも言われる膨大な数の植物標本を収集しました。また、植物知識の教育普及活動にも尽力し、植物研究者、愛好家などの育成に努めました。牧野博士が刊行した「牧野日本植物図鑑」は、専門家から一般の人々まで、今もお読み継がれています。

写真：高知県立牧野植物園 提供





きらめく青い海、白砂青松の浜、丘の上には坂本龍馬像。「桂浜」は高知市を代表する景勝地です。また、海辺の植物が多く生育しており、世界的植物分類学者「牧野富太郎博士」も植物採集に訪れています。雄大な太平洋を望む桂浜で、海辺の植物を観察しながら、史跡や観光スポットを巡ってみませんか？

### 桂浜散策コース 1.2km 約60分

- 牧野博士ゆかりの植物に触れながら桂浜の見どころを巡る、浜辺を中心としたコース。
- 桂浜観光案内所**
- 1 浦戸砲台場跡
  - 2 田中桃葉記念碑
  - 3 坂本龍馬彰勲碑
  - 4 吉井勇歌碑
  - 5 坂本龍馬像
  - 6 大町桂月記念碑
  - 7 龍王岬

### 桂浜探検コース 2.0km 約90分

- 桂浜散策コースに加え、高知灯台や櫓の小径を巡る、少し険しい道を含むコース。
- 桂浜観光案内所**
- 1 浦戸砲台場跡
  - 2 田中桃葉記念碑
  - 3 坂本龍馬彰勲碑
  - 4 吉井勇歌碑
  - 5 坂本龍馬像
  - 6 大町桂月記念碑
  - 7 龍王岬
  - 8 高知灯台
  - 9 櫓の小径

※勾配の急な階段を含みます

### 桂浜と牧野富太郎博士

昭和9年8月1日、牧野博士は城東中学校（現在の高知県立高知追手前高等学校）において講演したのち、参加者とともに採集会へと出掛けます。高知市街地からバスで若宮八幡宮（高知市長浜）に移動し、そこから砂浜や松林をゆっくり歩きながら、植物を観察したり、採集したり。何時間もかけて桂浜の灯台下までやって来て、最後は昭和3年に建立されたばかりの「坂本龍馬像」前に到着したようです。その時に桂浜周辺で観察された植物は、今も公園内で見ることができます。

【参考文献】 牧野富太郎植物採集行動録・昭和編 / 編者：山本 正江・田中 伸幸  
花と恋して 牧野富太郎 / 著者：上村 登

このマークの付いている植物は、採集会での観察の記録が残っている植物です。

### 教えて牧野博士！ 海辺の植物の特徴って？

常に潮風にさらされ、強い太陽の光を浴びる海辺の植物は、この過酷な環境から身を守るため、様々な形態や性質を持っています。例えば、水分を保持するため葉は厚く、光沢のあるクチクラ層と呼ばれるバリアで、日射や潮風から葉を守っています。砂浜では、波風で砂が動いたり、直接波が押し寄せることもあるので、地中深くに地下茎を広げたり、地表を這うように葉や茎をのびさせます。浜辺近くの土のない岩場や断崖地でも、岩の隙間に根を下ろし、自生する植物もあります。

**A ツワブキ** 開花期 10～12月頃

桂浜公園内の至るところに生育していますが、観賞用として庭園などによく植えられています。若い葉柄は食べることもできます。秋頃から黄色の花を咲かせます。

**B トベラ** 開花期 4～6月頃

主に海岸林に見られる樹木です。ヘラのような形の葉は、縁が裏に巻く傾向があります。白色の花が咲き、果実が熟した時には粘着質の赤い種子を見ることができます。

**C ハマヒサカキ** 開花期 11～12月頃

暖温帯や亜熱帯の海岸に自生する樹木で、道沿いの植込みなどに利用されます。晩秋に白色の花が下を向いて咲きます。牧野博士は研究の結果、既存の学名を組み替えて発表しました。

**D アコウ** 開花期 1年中(不定期)

高知県では足摺岬や室戸岬によく見られる亜熱帯性の樹木ですが、桂浜公園内でも見ることができます。花は一見果実のような花囊(かぶ)の中に咲くため、外から見るとはできません。牧野博士が大好きだった植物です。

**E ノジギク** 開花期 11～1月頃

牧野博士が高知県で発見し、命名しました。野路で発見したことから、「ノジギク」という和名を付けましたが、本来は主に海岸近くに自生します。秋から冬にかけて、白色の花を咲かせます。



**F コバナツツナミ** 開花期 5～6月頃

日本固有の植物で、海岸近くによく見られます。ツツナミソウが全体的に小さくなった変種で、牧野博士が命名しました。1.5cm程度の泡立つ波のような青紫色の花を咲かせます。

**G ハマヒルガオ** 開花期 5～6月頃

海辺の砂地に生える典型的な海浜植物です。砂の中に地下茎を長く伸ばし、茎は砂の上を這って広がります。初夏に薄ピンク色の1日限りの花を咲かせます。

**H アゼトウナ** 開花期 8～12月頃

太平洋沿岸の岩場に生える多年草で、桂浜公園内では龍王岬周辺の岩場に多く生育しています。夏から冬の初めにかけて、黄色の花を咲かせます。

**I ヤブツバキ** 開花期 1～3月頃

日本の暖温帯を代表する樹木ですが、高知県内では海岸から標高1,000m以上のところまで見られ、冬に赤色の筒状の花を咲かせます。サザンカとの雑種を含む多くの園芸品種があります。

**J タイキンギク** 開花期 11～3月頃

日本では紀伊半島南部や高知県を中心とした太平洋沿岸にのみ分布しています。寒い冬に咲くことから、牧野博士は「ユキミギク」という別名を提唱しました。冬に黄色の花を咲かせます。

※花の写真(一部を除く): 高知県立牧野植物園 提供